

《二本松市未来戦略会議からの提言》

1. 二本松市未来戦略会議の目的

二本松市の将来の飛躍と恒久的な繁栄・発展を目指して、全ての市民が幸せを実感でき、50年先、100年先、次世代を見据えた礎を築くために、市の特性を活かした自律的で持続的な都市づくりに向けて、専門的な知識および民間の経営的な観点からの幅広い意見を求めること。

2. 二本松市のキャッチコピーの策定

本会議では、二本松市の今後のビジョンを市民と共有するとともに、都市づくりの基本的なコンセプトを市内外に発信するために、二本松市のキャッチコピーを策定することを提案する。

[キャッチコピーの候補]

ほんとの空のもとで 見つける 本当の幸せ

ほんとの空のもとに 笑顔あつまるまち にほんまつ

3. 二本松市未来戦略会議からの「提言」

豊かな自然・多くの観光地・様々な歴史を有する二本松市は、これらの貴重な資源を有効に利用した都市づくりをする必要があるが、現状では必ずしもこれらの資源を十分に活用しきれていないとは言えない。そこで、このような現状を踏まえ、二本松市未来戦略会議として、50年先、100年先、次世代を見据えた礎を築くために、これらの資源を有効に活用し、全ての市民が豊かさや幸せを実感できる都市づくりのために提言を行い、この提言が二本松市の将来ビジョンや総合計画を立案する場合の指針となること期待する。

「ほんとの空のもとで、本当の幸せを見つけることができ、笑顔あふれる」二本松市になるためには、二本松の魅力を高め、豊かな生活を支える都市機能を維持、充実させる必要がある。そのためには人口減少を食い止め、更に人口を増加させることが不可欠である。

また、これらの解決策として、地方創生、人口減少対策、まちづくりなど、様々な取り組みが行われているが、日本国中の自治体は同じような悩みを抱えており、同様の取り組みは、全国の自治体で行われてきたが？

その自治体にしかない、その自治体でなければできない要因（ファクター）を見つけ、人が考えないところをどう活かすかが一番大事なことであり、そのためには、柔軟な発想ができる若い世代の人材育成に力を入れるべきである。

二本松未来戦略会議では、二本松市の魅力を高め、都市機能を維持、充実させるために不可欠な、交流人口と定住人口の増加、市民イノベーションに繋がるようなビジョン策定のために以下の提言を行う。

1) 第2、第3の朝河貫一を育てる

二本松市が生き残るためには、他の自治体との差別化を図り、二本松市の持つ特徴を活かしていく必要がある。また、50年先、100年先を見据えた時に、経済面や人的交流面で世界的なグローバル化が更に進行し、これに先手を打った対応も視野に入れなければならない、世界的な視野に立った考えができる人材育成は急務である。

- ① 二本松市が輩出した偉人「朝河貫一博士」の精神を顕彰し、誇りとし、次世代に受け継ぐこと。
- ② 「市民の翼」米国のハノーバー町、ダートマス大学、イエール大学との交流は約30年間にわたり実施され、300名以上の市民が参加してきた。この交流は世界的にも類を見ない取組みであり、二本松市の貴重な財産である。
- ③ これを最大限に活かしていくためには、既参加者同士のネットワーク構築と、交流を築いてきた大学との新たなプログラムによる人材育成、更には留学での進学を目指す。
- ④ これらの人材が起点となり、革新的な企画が実行され、世界的に注目を集めることとなり、二本松市民全体に波及し、二本松市の持続的発展につながる。

2) 交流人口の増加のために

- ① 安達太良山登山・岳温泉等の整備と、それを中核とした桜・紅葉・スポーツ・健康・温泉・食などを盛り込んだ観光パッケージの作成。
【安達太良高原ゾーンの整備】

- ② 霞ヶ城と二本松少年隊・菊人形・桜と歴史・祭り・偉人・先人・日本酒など有機的に結び付けた「ものがたり」のある二本松を目指し、それを観光振興につなげる。【二本松の歴史ストーリーの作成・活用】
- ③ 外国人観光客をターゲットにした観光パッケージの作成し、外国人受け入れのための環境整備をし、それらを SNS 等で世界に発信する。【インバウンドの促進】
- ④ 農業・ファームステイ・民泊・田舎暮らしの魅力・移住等の情報の発信。【農村部の魅力の発信】

3) 定住人口の維持・増加のために

定住人口の維持・増加のためには、雇用・暮らし・医療・教育・子育て・介護等の住環境を充実し、住みやすい・暮らしてみたい都市づくりが必要である。その場合、二本松らしさを表す後述の「キーワード」を活かした特徴のあるものにすべきである。

① 初等・中等教育の充実、ひとづくり

子どもを二本松の学校に行かせたくなるような教育レベルの高い小中学校教育の実現。そのために、二本松の歴史や偉人、スポーツを教育に活かし、学校間の連携・交流を図る。また、JICA 訓練所を、市民との交流や学校教育に活かす。

② JR の駅を中核とした街の開発

二本松駅、安達駅・杉田駅を中核とした、生活しやすい、暮らしてみたい、と感じさせるスマートで賑わいのある街の開発。

- ③ 企業誘致・先端産業誘致による雇用の創造。
- ④ 市民が常に歴史や伝統を意識し、アイデンティティと誇りをもって暮らせる都市づくり。
- ⑤ 農業・農村で稼ぎ、農業や田舎暮らしそのものが生業になりえる地域を目指す。

農業や田舎暮らしの楽しさ、可能性を知れば、「本当の豊かさ」が実感できる。

若者の田園回帰が流行の兆し！このトレンドを受け、農業で自立可能な仕組みと受入体制を作り、しっかりアピールすれば、都市部から人を呼び寄せることは十分に可能だと考えられ、田舎に住むという誇りを持ち、未来に向けたチャンレジを続ける人を育て、環境を整えることが大切ではないか。

4) エネルギーの地産地消により経済や社会活動を地域内で循環させる

地域資源を持続可能な形で最大限活用することで、あらゆる観点からイノベーションを創出し、地域経済・社会活動の好循環化を創造し、将来にわたって質の高い生活をもたらす「新たな成長」につなげていく。

- ① 地域に必要なエネルギーを地域のエネルギー資源によってまかない、富を市域外に流出させずに地域内にとどめ、地域の中で循環させることで、経済効果を相乗的に増大させる。
- ② 再生可能エネルギーの導入により、温室効果ガスの排出を抑制し、地球温暖化防止の面からも環境保全に貢献する。

さらには、自立電源であることから災害時の非常用電源としての

活用が期待できます。

50年先、100年先、次世代を見据えた礎を築き、自律的で持続的な都市づくりには、再生可能エネルギーが有用である。

5) 二本松の将来ビジョン作成のために

以上の諸点を踏まえたビジョンを具体化し、実現するために、以下のような仕組みで、若者の力を活用することが有効である。

- ① 県内外の大学生を巻き込み、二本松の魅力の発見と発信のための仕組みを作る。
- ② 市内の小中高生を、二本松の未来ビジョンの作成に参加させ、我がまちの将来は自分たちで創っていくという意識を醸成する。

6) 50年先、100年先、を見据えた市政運営にあたって

- ① これまでの成果を十分に検証し、限られた財源を有効活用すべく「選択と集中」を念頭に、徹底した議論のもと、中長期的な視点で優先順位を示すこと。
- ② 市の特性を活かした都市づくりには“ないものねだり”を掲げるのではなく、“あるもの探し”に徹し、二本松が現有している活力の源泉に成り得る宝物を掘り出して明確に認知することから始めねばならないこと。

4. 二本松市の将来ビジョン策定のためのキーワード

- 「観光」 安達太良山、岳温泉、霞ヶ城（桜・菊人形）、サファリパーク・
エビスサーキット、黒塚・安達ヶ原ふるさと村、
安達太良高原スキー場、安達太良 CC、日本酒、ワイン、
食、インバウンド、市民ガーデン、里山の活用、
城下町エリアの郊外に位置する山野、里山
自然味豊かな大地、農作地帯、休耕地など
- 「歴史・先人」 朝河貫一、二本松少年隊、祭り、大山忠作、高村智恵子、
山田脩、高橋信次、太田耕造、渡邊閑哉
- 「教育」 初等中等教育の強化、学校間連携、スポーツ振興
- 「街づくり」 JR線駅を核とした街づくり（二本松駅、安達駅・杉田駅）
コンパクトシティ・プラス・ネットワーク
- 「産業」 農業、千年の伝統「上川崎和紙」、企業誘致・先端産業誘致、
都市部と農村部のバランス
- 「ひと等」 愛、やさしさ、人の良さ、人と人とのつながり、人を活かす、
若者の知恵・力の活用、JICA 訓練所